

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

TAKATSUKI

Days

令和7年

6

No.1447

森と山から
生まれるお菓子

今月の高槻な人

畑昌子さん

「お菓子と森のカフェ forêt」店主



PICK UP

- 10 災害情報を逃さない
- 14 有害鳥獣から野菜を守ろう
- 18 木造住宅の耐震補助を強化
- 19 定額減税の不足額など
給付対象者に通知

TAKATSUKI NA HITO

高槻な人

畑 昌子

さん

〔お菓子と森のカフェ forêt〕店主

forêt

森と山から

生まれるお菓子

高槻市の北部、山深き場所にある高槻森林観光センター内でカフェを営む畑昌子さん。故郷である檜田地区の中畑から一度離れ、またこの地に戻って野菜作り、お菓子作りをしています。高槻の山の魅力を語っていただきました。



ランチメニューにも野菜がたっぷり。

店では、たくさんのお菓子が並ぶ他、ランチも提供。畑さんが自分で育てた野菜をふんだんに使ったボリュームたっぷりのパニーニが美味。ハーブティーなどドリンクも自家製多し。



自分で育てた花を使ったリース。

店内にはリースがいっぱい。「花材は結構高いけど、自分で育てるのでふんだんに使えます(笑)。去年から外でのリース教室講師にも呼んでいただくようになりました」



お菓子・野菜作りで毎日が充実。

店がオープンしてから順調ですか? という問いに「おかげさまで。辞めたいと思ったことは一度もないです」と畑さん。お菓子工房と畑、カフェを往復する毎日。



歴史あるログハウス内でカフェを。

「昭和53年に建てられたので、私の2歳下ですね」と畑さんが言う、カフェが入るログハウス。年季は入っていますが、花もたくさん飾られていてきれいに使われています。

TAKATSUKI NA HITO



森と山から
生まれるお菓子

TAKATSUKI NA HITO

高槻な人

畑 昌子

さん

「お菓子と森のカフェ forêt」店主



森に囲まれたログハウスで、
カフェをオープンできてラッキー！

—「お菓子と森のカフェ forêt」は、周りを木々に囲まれたとても自然豊かな場所ですが、畑さんは、お店を開店する時、最初からこういう山深い場所だと考えていたんですか？
「いえ、初めは高槻が京都の街中で、小さくても自分の好きな世界を作れるお菓子屋さんがきたらいいなぐらいに思っていました」

薪ストーブが置かれるなど、木のぬくもりを実感できる店内。

—それが、この場所でやるようになったのは、どういう経緯だったんですか？

「もともとこの場所は森林組合さんの直営店で、ここで開かれていた朝市に、自分の畑で育てた野菜を卸していて森林観光センターにはなじみがありました。出店場所を探しているタイミングで森林組合さんがにぎわいにつながる店舗を募集されると伺って、すぐに問い合わせました」

—実際に選ばれて、ここで店がやれると決まった時の気持ちはどう



畑 昌子さんの歩み

昭和51年 1976年	梶田地区の中畑で生まれる。
昭和57年 1982年	梶田小学校に入学。
昭和63年 1988年	第五中学校に入学。
平成3年 1991年	金光大阪高等学校に入学。
平成7年 1995年	関西学院大学に入学。姉と二人暮らしを始める。
平成19年 2007年	神戸で勤め始める。
平成27年 2015年	中畑に戻る。
平成28年 2016年	辻製菓専門学校入学。2年間お菓子作りを学ぶ。
平成30年 2018年	お菓子工房を開設。
令和元年 2019年	「お菓子と森のカフェ forêt」オープン。

でしたか？

「なんて運がいいんだ！と思いました(笑)。このログハウスがとてもステキで、家から近いし、山の中なのでわざわざ来てもらわないといけないけど、広々としたこういう建物のほうが、私の好きなことができるかもしれないとワクワクしましたね」

—今住んでいらっしゃるの、ここからも近い梶田地区の中畑ということですが、生まれもそうですか？

「はい、高校生まで中畑で育ちました。西宮の大学に入る時に家を出て都会で暮らし始めて、大学を出てからも神戸などで勤めていたので、約20年ほどここから離れていましたね」

土を触ることで落ち着いて、
畑がないと生きていけない。

—都会で暮らしていた畑さんが、中畑にUターンされたのは、きっかけがあったのでしょうか？
「仕事がしんどくて精神的に辛い時期が続いていた時に、実家が兼業農家だったので、母が野菜をせっせと送ってくれていたんですよ。それを食べると、すごくおいしくて、涙が出ました。そして元気づけられたんです」

—辛い時には、そういうふうに使われるとありがたいですね。
「私は三人きょうだいなんですけど、姉と弟も家を出ていて農業は継げない。なんとかしてこのおいしいものを残せないかという想いと、給料をもらうのではなく自立して成り立つような仕事をしたいという考えから、自分の性格とやりたいことを活かしながら、新しい道

畑さんが育てた野菜や果物、ハーブが使われているお菓子たち。



「母が花を育てていて、私も花が好きで。リースも自分で作っています」と畑さん。



が開けないかと考えて、実家に戻ることにしました」

—中畑に帰ってきて、まず何を始めましたか？
「毎日畑に出ていました。子どもの頃はイヤでイヤで畑などは全然手伝っていなかったんですけど、帰ってきて土を触ることで、こんなにも精神が落ちつくのか、畑仕事って、こんなに無心になれるのかと。畑も育てる農作物も何もしゃべらないのがいいのかもしれないし、自分が手をかけたことがちゃんと返ってくるのがいいのかもしれない。人間とは違う健気さ、謙虚さ、慎ましさが偉いなと思って。1年ぐらい中畑で暮らして、もう私、畑がないと生きていけないと思いました(笑)」

—人生のよきパートナーとなったわけですね。畑ではどのようなものを作っているんですか？

「春と秋はホウレン草、小松菜、大根、ニンジンなど、一般的な野菜に加えてレタスが好きで、いろんな色、食感のレタスを作って、それを数種類合わせてサラダセットにして販売しています。夏はピーマン、ナス、トマト、ハラペーニョを作ったり、収穫したものでピクルスを作ったり。もちろんこれらの野菜はランチでも提供していますが、野菜を置くカフェというのが理想だったので、オープン当初から野菜も販売しています」

—そうやって野菜やハーブを育てることから、次はそれを使ったお菓子作りへと進むわけですね。

「はい。私、お菓子を作るのが小さい頃から好きで、小学校から帰ってきたら、家にある材料でお菓子を作って、みんなにふるまうということもしていました。でも、大学に行った頃からお菓子をピタッと作らなくなって。それでも勤め人時代にストレスが溜まってきたら、またお菓子を作るようになって。そういえば私、お菓子好きだったなあと。農業だけで生きていくのは結構大変なことだから、家で作った農作物、米、果物などを使ってお菓子を作ると、すごく楽しいんじゃないか、その楽しさをみなさんにも共有したいと思い、製菓の専門学校に通い始めました」

車で30分で静かさと便利さを
行き交うことができる高槻。

—2年間お菓子の勉強をされて、今店内には本当に多くのお菓子が並んでいます。何種類ぐらいあるんですか？
「大体35種類前後です。オープン当初は半分ぐらいでしたから、増えてますね」

—その中でも、ビスコッティはたくさん種類がありますね。
「原木しいたけ&チーズ」や「干し柿ショコラ」、「ごぼう&サ

ログハウスは、積み上げられたシイタケのホダ木にインスピレーションを得て設計されたそう。

「いろんなお花屋さんを見に行くけど、どの店もセンスがいいですね。もっと勉強しないと」と畑さん。

ラミ」など、畑の収穫物を生かして、洋菓子としては珍しい素材も多い。

「うちのお菓子は地味なんです(笑)。お菓子ってギフトにすること

も多いので、見栄えよくカラフルにしないとダメだと思って、製菓学校の先生にも言われたんですけど……」

—いえいえ、見た目よりも中身ですから。実際、[forêt]以外の場所でもたくさん売られるようになりましたよね。
「まだまだですけど、大阪市・難波の百貨店[高島屋]さんにも置いてもらっていますし、高槻だと安満遺跡公園などで販売していただいています」

—都会から高槻の山に帰ってきた畑さんが、土地の素材を使って作り始めたお菓子が、今度は都会へと出ていく。なにか不思議な循環ですね。
「そうですね。このあたりは山深く人も少ない

ですが、車だったら30分ほどでにぎやかな市街地にいられて、なんでも買えてしまう。静かさと便利さをたった30分で行き交うことができるのが高槻ならではの魅力ですね。お客様も高槻をはじめ茨木、枚方、寝屋川などからたくさん来てくださるのですが、「旅行に来た気分、別世界よね」と言ってくださって、ありがたいなと思います」

—本当に、この静かな環境で、木の温かさやすがすがしさに囲まれる時間は他にはなかなかないもの。そんな別世界で、これからこのカフェをこうしていきたいという想いはありますか？

「いろいろもっとかわいくなりたいです。お花ももっといろんな種類を飾りたいし、ランチをもうちょっと充実させなければなと思って。もっと心地いい場所にして、昔の私みたいに疲れたなと思っている人が、『ここに来たい』と思ってくれたら、すごくうれしいです」





好きなヒト & スポット



現住職の原田信水さん(写真右)と次期住職の松岡永信さん。「ここから見る景色は、どの家も絵になります」と原田さん。

01

ヒト

TAKATSUKI NA HITO

妙音寺
原田信水さん

中畑

景色も美しい高台の寺で、質素ながら豊かな生活。

畑さんの家から坂を上った標高400mの地に建つ臨済宗の寺院。「ご住職の原田さんは、年中素足で、お堂も毎日磨き上げてきれいにされて、庭の奥で野菜を作ってそれを召し上がる。大変質素なんですけど、豊かな生活をされています。妙音寺さんから中畑を見渡すと、いい景色だなあと気分が晴れます」と畑さん。この場所で生まれ育った原田住職は、「ここにある風や光は、なにものにも代えがたいもの。桃源郷ですね」と。



03

スポット

TAKATSUKI NA SPOT

芥川緑地あたりからの景色

南平台

わざわざ見に行きたい“ザ・高槻”な景色。

[高槻市立自然博物館 あくあびあ芥川]があり、令和6年には[芥川緑地健康づくり広場 アクトレ]が開園した芥川緑地。畑さんは、車で市街地へと向かう時にわざわざこの脇の道を通ることも多いそう。「このあたりから見えるのは、私にとっての“ザ・高槻”な風景。山があって、川が流れていて、田んぼもあって、家もあって、高いビルも見えて、高速道路も見ることができる。この景色を見ると、ちょっとウキウキします」



04

スポット

TAKATSUKI NA SPOT

小鳥のさえずり

季節ごとに聞こえてくる、まるでBGMな鳴き声。

自宅がある中畑や高槻森林観光センター周辺には、いろんな鳥がいると言う畑さん。「カフェの窓から見える庭にも、ルリビタキやキビタキがちゅんちゅん来てかわいいですよ。季節によって鳴き声が違うのですが、特に5・6月頃は、姿は見えないんですけどいろんな鳥が鳴いていて。お客様が『鳥のさえずりのBGMをかけてる?』っていうぐらい。『これは自然のさえずりなんだね。うれしい』と喜んでくださいます」



02

スポット

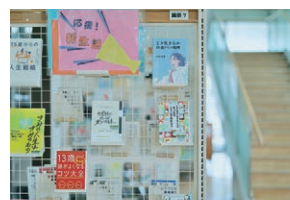
TAKATSUKI NA SPOT

高槻市立
服部図書館

浦堂

知らない世界への
冒険ができる図書館。

平成25年に開館した、高槻市内では一番新しい市立図書館。「インターネットで欲しい本を買うのもいいですけど、本屋さんもそうですが、ああこんな本もあるのかという発見があるから楽しいですね。本屋さんと違って、古い本もあって無料で貸し出しをしてくれるから、知らない世界への冒険ができます。家から一番近い図書館なので、お買い物帰りに時間があつたら、寄りたくなる場所です」と畑さん。



「料理の本がすごく充実しているのでよく借ります。最近、店に置く詩集を探したりしました」と畑さん。



05

ヒト

TAKATSUKI NA HITO

[山里リトリートねこ福]
井上恵美子さん

原

自分の“大切”を再確認できる
ゆったりした場所づくり。

化粧品会社で研究員をしていた井上恵美子さんが、母親を在宅介護するために築130年超えの実家をリノベーション。平成28年から、イベントや講演会などを開催できるスペースに。「専門知識を日常に活かしたくて、石けん作りの他、味噌作りやヨガレッスン、音楽鑑賞会など、ていねいな暮らしの提案をいろいろやってます」と井上さん。「当店にもよくお越しくださいます。古い文化を大事にされ、ものを作るのがお好き。穏やかな雰囲気、人を惹きつける魅力があります」と畑さん。



屋号からもわかるように猫好きな井上さん。現在3匹の愛猫と過ごす。気持ちよさそうに抱かれているのはエリオスくん。

